銀天エコプラザ通信

第155号
(2024年6月1日発行)

6月

『水素関連：未来のエネルギーについて』

長州産業株式会社　水素事業部　三上展弘

長州産業は1980年の創業当初から、太陽熱温水器、石油給湯器などのメーカーとして事業活動をおこなってまいりましたが、2010年にそれまでの中心事業であった石油給湯器の製造販売を終了、現在は創業当時のいずれの製品も製造しておらず、太陽光パネルの製造を中心とした事業内容となっています。しかし、太陽熱温水器は太陽の熱エネルギーを利用し、太陽光パネルは太陽の光エネルギーを利用する機器であり、我々は設立当時からクリーンエネルギーである太陽光の恩恵を受けて成長してきた会社であるといえます。

太陽光発電といえば、その設置のし易さから、今では再生可能エネルギーの代名詞となっていますが、風力発電とあわせ、不安定な電源と言われています。不安定な電源をより安定化して利用可能とする。そのために、蓄電池を中心とした電気を貯める仕組みの導入が盛んに行われるようになりました。

出典：環境省　燃料電池バス(TOYOTA)

また現在は電力をガスに変えて貯めるPower to Gasの技術も注目されており、今後の技術革新により、様々なシステムが実用化されていくものと考えられます。

長州産業は、蓄電池だけではなく、Power to Gasについても2010年代から取り組んでおり、「水素先進県」を推進する山口県の後押しの中、2017年には自社敷地内に太陽光を利用して水素を製造するオンサイト型水素ステーション「SHiPS」を設置、これをベースとした水素ステーションの販売を行うことができるようになりました。また、これとあわせ、純水素燃料電池発電システムを開発、将来訪れると予想される水素社会に貢献するための事業活動を行ってきております。

長野県企業局様

我々は、再生可能エネルギーを身近に感じる機会を得たことで、現在、将来の社会に貢献できると自負し、環境機器を提供し続けられるよう努めてまいります。

SDGs未来都市としてESDをどう推進する

ESDうべ推進協議会会長　浮田正夫

SDGsはご存じでもESDって何？っていう人が多いですね。「持続可能な開発のための教育」、簡単に言えば「SDGs達成のための人財育成」です。宇部市はSDGs未来都市の認定を2018年6月に受けましたが、この協議会はその2ヶ月前に設立されています。事務局はうべ環境コミュニティーが務めています。

先日、今年度の当協議会の総会が開催されました。議決要件である参画団体22の過半数の同意が確認できるぎりぎりの状況でした。われわれの不行き届きも否定できませんが、事前にお願いしたアンケートでも協議会に参画団体としてのメリットが感じられないという意見もかなり多くありました。

筆者には、環境系の民間団体がカバーできるものではなく、市や教育界として本腰を入れる体制が作れないかとの思いがありますが、市にはすでにそれぞれの部局でESDに取組んでいるという認識をお持ちのようで、もとより簡単な話ではありません。一方で、必ずしも全体として、うまくいっているとは思えないと言う意見もあります。また、そんな大それたことを考えず、環境系参画団体のそれぞれの取組を報告し合い、ゆるい交流の場とすればいいのではないかという意見もありました。

いずれにしても、この辺りの議論を関係者間で深め、協議会の今後のあるべき姿を検討する必要があると思われます。夢物語ですが、ESD推進の「宇部モデル」として発信できれば良いですね。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段　ＪＲ宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

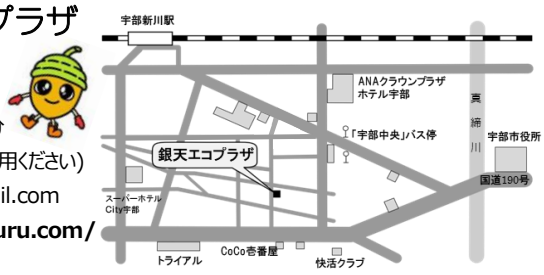
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間　9時～17時　**HPアドレス http://ubekuru.com/**

休館日　土･日、年末年始（12月29日～１月３日）



HomePage　facebook　x

NPO法人うべ環境コミュニティー

消えた太古の森

宇部自然保護協会　張替 二郎

宇部市にはメタセコイアが恩田運動公園をはじめ公園や学校にたくさんあります。メタセコイアは化石の中にある植物で絶滅したと思われていましたが、1948年（昭和23年）中国で発見され、化石が生きていたと世界中の人が驚きました。

道路側から見たメタセコイア

宇部市のメタセコイアは、1956年（昭和31年）商工会議所の弘長専務がメタセコイアは石炭の原木であり炭都宇部市になんとか植えたいと思い、出張で久留米に行く金子部長に佐賀県の林務課に苗木があるからなんとか宇部市に譲ってもらえないか頼んでくるように言いました。佐賀県は宇部市の事情を聴いてこころよく残っていた苗木50本のうち30本を譲ってくれました。商工会議所はこれを公園や学校に植えました。中国で発見されてわずか8年後のことで、世界でも最も早く植栽されたメタセコイアでした。

また同年宇部市には、国の機関である宇部石炭支局があり、支局の機関誌を「めたせこいあ」と命名して発刊しました。

1963年（昭和38年）山口県で国体が開催され、恩田運動公園は夏季大会場になり全国各地から集まって来る選手や関係者を緑と花でお迎えしようと、市民はメタセコイア369本を献木し植栽しました。プールの側にはメタセコイアの森を造りメタセコイアに囲まれたプールで選手たちは競泳をしました。メタセコイアは石炭の原木で石炭で栄えた宇部の市民は特別な思いをメタセコイアに寄せていました。中国で発見されてわずか15年後のことで、恩田運動公園の森は世界でも最も早く造られた森でした。以来61年樹高20mの巨木の森となりました。500万年前日本が列島の形になり、宇部の地にもメタセコイアが生えており恩田運動公園のメタセコイアの森は宇部の太古の森でした。プールで遊ぶ子供たちを太古の森が見守っていました。その写真に示す西北側の道路に面した森が駐車場を造るため一本も残らず伐られてしまいました。

旧子供プール側から見たメタセコイア

メタセコイアに寄せる市民の思いと、先人が未来の市民のために造ってくれた市民の献木による太古の森が伐られてしまいました。駐車場には「ここにかつてメタセコイアの森がありました」と案内板が立つでしょうが、太古の森に優しく吹いていた風が車の上をむなしく吹くことでしょう。

「バイオマス産業都市さが」（2024.3.15実施）環境バスツアーに参加して（その３）

うべ環境コミュニティー理事長　加藤 泰生

【東よか干潟ビジターセンターひがさす】

今回のツアーの主目的ではなかったが、国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録された有明海湾奥部に広がる泥の干潟「東よか干潟」を体感する施設である「東よか干潟ビジターセンターひがさす」を訪問する機会が得られ、自然環境保全を改めて考えさせられたひと時であった。

海岸線の壮大な干潟、そしてそこに集う多くの野鳥たち、実は、この地が、渡り鳥の飛行ルートのちょうど中間地点にあたると聞く。

渡り鳥の集う海浜（休息場と餌場）
（南方面の展望）

壮大な海岸線とその整備状況
（東西方面の展望）

必然的に、羽休めかつ豊富な餌場はしばしの休憩にもってこいで、自然に恵まれた、彼ら野鳥の観察に適地となっている。この世界でも稀なる遠浅で肥沃な干潟環境を幾分整備、保全することで、ほぼ恒久的に、野鳥の集う、そして人のくつろげる場所が得られ、うらやましい環境であると感じた。

「東よか干潟ビジターセンターひがさす」　からの眺めは絶景であった。鳥の数も半端ではないと聞くが、すでに、多くの渡り鳥が、渡りの途につく準備をしているものと思われる。今回は、残念ながら短時間の滞在でこの地を後にしなければならなかったが、次回くる機会があれば、もう少し余裕のある滞在としたいと思った。

「東よか干潟ビジターセンターひがさす」
（展望台全景）

見渡す限りの田園風景と南端海岸線
（北方面の展望）